

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 7年 5月 27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490201526		
法人名	株式会社 ケア 2 1		
事業所名	グループホームたのしい家安佐南		
所在地	広島県広島市安佐南区祇園 6 丁目12-31 (電話) 082-850-2221		
自己評価作成日	令和7年 4月9日	評価結果市町受理日	令和7年6月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人福祉キャリアセンター
所在地	広島市中区吉島東一丁目 2 2 番 2 号
訪問調査日	令和7年 5月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

たのしい家安佐南は入居当初のコンセプトは重度の方でも受け入れ可能でその方らしい生活を自分のペースで生活できる事が特徴です。又、グループホームには珍しく機械浴も設置しており寝たきりの方でも浴槽に入れ安心して入浴出来ます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は閑静な住宅街にあり、広々とした木目調の落ち着いた雰囲気の大ホールで、隣接した保育園の園児の元気な声に癒されながら日々を穏やかに過ごしている。近隣に大型ショッピングセンターがあり職員と買い物に行き気分転換できる。利用者が楽しみながら食事ができる工夫がされており、事業所の畑で利用者が職員と一緒に育て収穫した野菜が食卓に並び、季節の献立だけではなく、海外の実習生が調理した母国料理の提供、毎月「肉の日」「お楽しみ食事会」のイベント食事会がある。「楽笑」を事業所理念に掲げ、利用者も職員も楽しく笑って過ごせるように会社全体で意識し取り組んでいる。重度者も受け入れており、医療と介護でチーム一丸となり終末期に向けての支援も行っている。
--

自己評価	外部評価	項目(ユニット1) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型の施設としてご利用者の日常生活を踏まえ、事業所内だけでなく地域との交流、社会参加等各職員がまず理解して計画、行動している。	職員は毎日理念を唱和し業務に取り掛かっている。施設理念の「楽笑」は、楽しく笑って過ごせるを事業所を目指す事を意味しており、その理念が職員に浸透し目指す方向が同じであると実感できている。作業的にならず一緒に過ごすという事を意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	重度の方が多く外出する方は限られるが隣の保育園児が施設に来て下さったり、買い物へ行き地域資源を大切にしつつ生活が送れるように支援してる。	事業所の隣の保育園との交流は活発で制作物を贈り合ったり飾ったり、夏祭り等の行事に招待するなどの機会もあり利用者に喜ばれている。事業所の入口に駄菓子屋を設けており地域の小学生や保育園帰りの親子等が気軽に立ち寄って利用する事があり地域に開けた事業所作りが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	玄関に駄菓子屋を出店しており、見学の方だけでなく、駄菓子屋に来て下さった親御さんにもお子さんにも施設がどういうところ課の案内をして理解につとめている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター、病院、民生委員の方等参加して頂き報告だけでなく、助言や地域活動等も案内してもらい事業運営に協力して頂いてます。	地域の病院職員、地域包括支援センター、民生委員の出席が主で、家族にも出席をお願いするが「会議」という形式に気が引ける様子のため気軽に出席してもらえよう声掛けの工夫を検討している。また近隣のグループホームなど他法人の介護施設とも横の繋がりを持てるよう、今後会議の出席をお願いしたいと考えている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営や支援においては介護保険課の方に相談する等の関りは持っている。	制度や加算等についてわからない事があれば施設長が何でも管轄の介護保険担当部署に問い合わせて相談しており、困りごとの相談などがあれば話しやすい関係性は出来ている。地域包括支援センター主催の研修会の声掛けがあり、今後は積極的に出席していきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目(ユニット1) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を年2回以上研修を行っており各職員が理解した上でご入居者対応を出来るようにしている。又研修で理解度が高くない場合は再研修等も実施している。	動画研修を実施した後にテストを行い職員の理解度を確認している。再研修は本社主体で行い徹底した指導を行っている。スピーチロックについてはその場面が発生した際施設長等が相談、指導に当たりその都度対応を共に考えている。動きを制限する言葉が出そうな時には先回りして想定される場면을予防している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内で虐待行為等見た場合は通報義務があるので職員に周知している。ご家族においても面会時に気になることがあれば報告してもらうようにしている。まずは虐待に関して理解研修を定期的に行って防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度を使われているご利用者の方がいるので必要性等は伝えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の時も事前に誤解が生まれない様に様々な状況が生まれるので想定して説明は行っている。こちらからの説明だけでなくわからないことをすべて契約等で話を聞きお答えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の時等に関わる機会も多いのでその時に意見を聞き可能な限り反映させている。	家族の面会が多いためその際に色々な意見をもらっている。事業所に対応できる事・出来ない事について納得してもらえるよう話し合い、利用者を共に支援するチームという姿勢を意識している。毎月写真や手紙を送り遠方の家族にも様子が伝わるようにしている。利用者と職員が対話する時間は日頃から充分に取れており、話しかけやすい雰囲気を心がけている。規定の場所での喫煙が許可されており付き添った職員と一対一で会話したり、入浴時は個別対応のためゆっくり思いを聞ける機会にもなっている。	

自己評価	外部評価	項目(ユニット1) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや定期的な面談で意見を聞き、基本的に管理者だけでなく職員主導で各々が考え意見を合わせながら従事している。	比較的勤続年数の長い職員が在籍している。施設長や本社の上司とも話しやすい関係性が出来ており、意見を伝える事が出来る。現場の意見を聞き、人員の補充等について希望が叶えられた例もある。職員間の関係性もよく、上下の隔たりを感じず何でも話し合える雰囲気がある。休憩や休日もちんと確保出来、職員が出来る限りストレスなく就業出来るよう事業所や本社が配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各自が向上心を持って業務出来ており、努力や勤務態度も含めて管理者が理解しており働きやすい環境を作れるように努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人としては年間で研修を計画しており様々な分野での理解に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者の交流は現状多くは出来ていないが営業も兼ねて話す機会はあるのでそこで現状共有等行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントにてご利用者やご家族のニーズや困っていることを理解した上でより良い生活が出来るようにご家族と支援方法等支援している。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット1) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居にあたり不安なことは多々あると思うのでまずはわからないこと等聞きながらコミュニケーションを大事にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学の時もそうだが現状のADL、、生活を踏まえたうえで支援方法を見極め他サービスの案内提案等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員とご入居者が共同生活という認識を持ち立場等なく切磋琢磨して生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご入居されても関わる機会を継続して持ってもらいながらご家族とご本人のより良い支援を考えている。その中で関係性構築にも努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関わって来られた方が定期的に面会に来られたり、今まで行きつけの美容室を使われて、入居しても訪問で来てもらったり、ご家族と外出したり等継続して支援している。	自宅にいた時のご近所の友人が訪ねてくる事があり事業所はいつでも歓迎している。年賀状のやり取りになど自力で書くことが難しくなった利用者については職員が代筆し途切れないよう支援している。事業所の訪問理美容とは別に、希望で元々の行きつけの美容師に訪問してもらっている利用者があり、自宅にいた時と変わらないサービスが受けられるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目(ユニット1) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活されているので関りの機会を日々提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了理由は様々だが関係性は引き続き構築していき相談されることもあり可能な限り支援や提案はしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々生活されている中で状況把握に努め職員間も共有している。	入居前から本人は勿論、家族、担当ケアマネジャー、関係事業所等より情報収集している。比較的認知症が重度の利用者が多く発語困難で意思を伝える事が難しい利用者については日々の関りの中で思いを察する努力をしている。食欲のなくなった利用者について食べられそうな物をあれこれ試行錯誤して提供する中で、意外な物に食が進むなど新たな発見の機会がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントで生活歴等把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月のカンファレンス等でも各々の状況把握と支援方法を検討している。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット1) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネージャーを中心に介護計画、支援を行う上で関係者には助言を頂き、ご家族の要望や職員間の話し合いを中心により良い生活が送れるように支援している。	タブレットやスマートフォン等電子端末を利用しており介護計画を含め利用者の情報をいつでも職員が閲覧、確認出来るよう管理されているため共有できている。ケアマネージャーは最低3か月～半年、状態が変わればそれに限らずその都度計画の見直しを行い、作成の際現場の職員から状態を細かく聞き取りしている。担当者会議では本人、家族は勿論、現場の職員にも事前に意見を募りチームで関わるように工夫されている。理念にある通り楽しく笑って過ごせる前向きな目標を取り入れられるように相談している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	様子は細かく変わることもあるので支援を行う中で変化に気づき申し送り共有把握を第一につとめて計画の見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	多機能化様々だが臨機応変に1つにとらわれずに支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	第一に地域資源を把握しご本人がより安全に暮らせる生きがいを持てるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医の説明メリット等説明させて頂き定期的な訪問診療等日々安心して生活できるように連携を図っている。	内科、歯科、心療内科は訪問診療があり、皮膚科や耳鼻科などは症状、必要に応じて家族や職員が同行し受診している。定期的な往診とは別に、内科医は時間がある時に施設に立ち寄っており、職員は日々の病状を報告し指示を受け、身体状況に応じた介助を行っている。訪問看護師も定期的な訪問だけではなく、体調不良時や急変時にはすぐに駆けつけ対応している。	

自己評価	外部評価	項目(ユニット1) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々状態が変化の中で状況の変化等あれば訪問看護さんに相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は入院期間やご家族にも相談し意向を伝え早期退院できるようにと施設に戻り以前のように生活できるように事前に相談等を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に意向を確認し、各関係者と共に連携し支援を行っている。	入居前に家族が重度化や終末期の意向を本人から聞き出しているケースが多い。契約時に家族より本人の意向を確認し、合わせて家族の意向も聞いている。終末期を迎えた時は意向を再確認しケアプランを立て直し、チームで一丸となって支援に取り組んでいる。職員一人ひとりが終末期の研修を重ねており、管理者やリーダー、先輩職員の指導により尊厳のある丁寧な看取りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応はマニュアル化しており、連絡先や対応を行えるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害訓練は定期的に行い実践しており、近所の支援体制は徐々に連携を取っている。	年2回火災訓練を行い、そのうち1回は消防署員の指導を受けている。洪水ハザードマップに施設のごく一部が浸水区域と想定されており、災害訓練として実際に利用者に階段を下りてもらい何分で下りれるか測定し避難のシュミレーションを行っている。災害時の連絡網を職員全員が把握しており、また、事業所の本社が備蓄の水、食料、おむつ等の管理を行い、緊急時に備えている。災害時にはスムーズに避難できるように重度者はなるべく一階に入居してもらっている。	夜間に災害が起こった時は、連絡網を回し急いで職員が駆けつけるまで、少人数の夜勤の職員だけで対応することになる。近隣住民と役割分担し、昼夜を問わず利用者が安全に避難できるよう、地域との協力体制の構築を期待したい。

自己 評価	外部 評価	項目(ユニット1)	自己評価		外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	基本的には丁寧なお声掛け、不快な発言がない様に支援し職員間でも気を使っている。	職員は利用者一人ひとりに傾聴し思いを汲み取り、敬意を持ち丁寧に話しかけている。利用者同士のトラブルで人格や誇りを損ねないようにテーブルや座席の配置に気を配っている。排泄の失敗がある時は職員がさりげなくトイレや浴室に誘導している。おむつ交換時や排泄時、入浴時は必ずドアを閉めて介助を行い、プライバシーを守っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛け質問も答えやすいような発言をしてご本人のペースで自己決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご自身のペースで過ごせるように尊重しながら都度お声掛けを行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時等身だしなみを意識しご本人と相談する等支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が一番の楽しみでもあるのでアンケートを取って食事を提供、行事食等お手伝いできる方は率先してお声掛けを行っている。	利用者は日常の、季節を感じる献立も喜んでいるが、海外の実習生が調理した母国料理や、利用者の意見をもとに職員が献立を考えた「お楽しみ食事会」「肉の日」のイベント食事会を楽しみにしている。可能な利用者は実習生や職員とともに調理を行い、「自分で育て収穫した野菜が食べたい」という思いがあり施設内の畑で野菜を育てている。食べる楽しみに合わせ意欲の向上にも繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット1) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	摂取量は日々把握し、栄養状態等医療と相談しその時の状態にあった食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアを都度行い、訪問歯科等連携して清潔を保てるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンは記録を参照に職員間で共有し、トイレ誘導行って日々把握に努めている。	職員は排泄の記録をタブレットに入力し、職員間で情報共有している。入居時に聞き取った情報や日々の支援により個々の排泄パターンを把握しており、早めにトイレ誘導を行い、トイレで排泄できる支援を行っている。トイレで排泄できない利用者の家族には、適切なおむつ交換の必要性和皮膚炎のリスクを説明している。おむつやりハビリパンツを適切に交換しており、衛生的で心地良く生活できる支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の原因は様々であり食事、水分摂取量、運動等個人差はあるが、まずは薬等に依存せずできることを支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴はご本人の意向を尊重して支援している。又施設には機械浴もあるので寝たきりの方でも浴槽に入れるような環境を提供している。	本人の意向や体調に合わせ、週2回の入浴を基本としている。個浴にて都度お湯を入れ替えており、持ち込みの好みのシャンプーを使用できる。定期的入浴回数以上の希望があれば前向きに検討したい。拒否のある利用者には、誘導の上手な職員の声掛けを模範にして入浴を促している。難しい時は無理強いせず日を改めて入浴の声掛けを行う。一階のユニットには機械浴があり、重度の利用者も安心して浴槽に入りお湯に浸かっている。	

自己評価	外部評価	項目(ユニット1) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	表情等も見ながらご本人の意思を尊重して休める時は休み夜間良く休めるように日中は支援お声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	必要に応じてお薬処方して頂き、職員間でも必要性がなくなれば主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各々役割やできることは様々なのでおひとりおひとりにあった支援お手伝いや趣味活動を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物やひなたぼっこや外出のレクリエーションの計画を行い、出かけれる環境の提供と社会参加にもつながる支援を行っている。	本人の希望に添い外出可能な利用者は、近隣のショッピングセンターに施設の車で職員が同行し買い物に出かけている。家族とともに食事や野球観戦に行きリフレッシュする利用者もあり、本人や家族の希望に応じて外出が楽しめる支援を行っている。施設の外に出かけることができない重度の利用者は、施設の庭で日向ぼっこをしながら隣接の保育園の行事を眺め穏やかに過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の意向を尊重しつつ自由にお金を使えるように買い物や宅配等行っている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット1) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を持ってご家族に電話されたり、要望があれば施設からご家族へ連絡できる環境の提供を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安心できる環境が重要なのでまずは清潔を保ち各空間がわかりやすいようにしている。張り紙貼ったり等。季節感に関しては季節に応じた貼り絵や作品を展示したりしている。	整理整頓が行き届き衛生的な共有空間は、白い壁に濃色の幅広の巾木、木目調の床と天井の配色になっており、床と壁の区別がつき歩きやすい。広いダイルームには季節の貼り絵や習字などの作品や保育園の園児より届けられた貼り絵を展示している。季節感があり、家庭的な雰囲気居心地よく過ごせている。トイレは1ユニットに3か所、うち一つは脱衣室の隣室にあり、入浴時の尿意や便汚染時にプライバシーが保て、介助が流動的に行える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各居室であったりテーブルやソファの配置等気の合った方と話せる環境を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に家にある物、馴染み深いものを持参されることで少しでも安心して休めるようにご家族と相談している。	入居時に本人、家族が希望する物は可能な限り持参してもらい、必要に応じていつでも入れ替え等は受け付けている。本人が納得し満足したうえで馴染みの物を居室に置き、居心地良く生活できる支援を行っている。希望すれば仏壇も持ち込みできる。穏やかな配色のカーテンと介護用ベッドを備えている。大きな収納スペースがあり整理整頓しやすい。居室で過ごす時間が長い利用者也居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内は安全に配慮した設計で自立した生活が送れるように状況に応じて支援している。		

V アウトカム項目(ユニット1) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(ユニット2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型の施設としてご利用者の日常生活を踏まえ、事業所内だけでなく地域との交流、社会参加等各職員がまず理解して計画、行動している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	重度の方が多く外出する方は限られるが隣の保育園児が施設に来て下さったり、買い物へ行き地域資源を大切にしつつ生活が送れるように支援してる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	玄関に駄菓子屋を出店しており、見学の方だけでなく、駄菓子屋に来て下さった親御さんにもお子さんにも施設がどういうところ課の案内をして理解につとめている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター、病院、民生委員の方等参加して頂き報告だけでなく、助言や地域活動等も案内してもらい事業運営に協力して頂いてます。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営や支援においては介護保険課の方に相談する等の関りは持っている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関しての研修を年2回以上研修を行っており各職員が理解した上でご入居者対応を出来るようにしている。又研修で理解度が低い場合は再検収等も実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内で虐待行為等見た場合は通報義務があるので職員に周知している。ご家族においても面会時に気になることがあれば報告してもらうようにしている。まずは虐待に関して理解研修を定期的に行って防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度を使われているご利用者の方がいるので必要性等は伝えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の時も事前に誤解が生まれない様に様々な状況が生まれるので想定して説明は行っている。こちらからの説明だけでなくわからないことをすべて契約等で話を聞きお答えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の時等に関わる機会も多いのでその時に意見を聞き可能な限り反映させている。		

自己 評価	外部 評価	項目(ユニット2) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや定期的な面談で意見を聞き、基本的に管理者だけでなく職員主導で各々が考え意見を合わせながら従事している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各自が向上心を持って業務出来ており、努力や勤務態度も含めて管理者が理解しており働きやすい環境を作れるように努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人としては年間で研修を計画しており様々な分野での理解に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者の交流は現状多くは出来ていないが営業も兼ねて話す機会はあるのでそこで現状共有等行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントにてご利用者やご家族のニーズや困っていることを理解した上でより良い生活が出来るようにご家族と支援方法等支援している。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居にあたり不安なことは多々あると思うのでまずはわからないこと等聞きながらコミュニケーションを大事にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学の時もそうだが現状のADL、、生活を踏まえたくうえで支援方法を見極め他サービスの案内提案等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員とご入居者が共同生活という認識を持ち立場等なく切磋琢磨して生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご入居されても関わる機会を継続して持ってもらいながらご家族とご本人のより良い支援を考えている。その中で関係性構築にも努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関わって来られた方が定期的に面会に来られたり、今まで行きつけの病室を使われて、入居しても訪問で来てもらったり、ご家族と外出したり等継続して支援している。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活されているので関りの機械を日々提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了理由は様々だが関係性は引き続き構築していき相談されることもあり可能な限り支援や提案はしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々生活されている中で状況把握に努め職員間も共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントで生活歴等把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月のカンファレンス等でも各々の状況把握と支援方法を検討している。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネージャーを中心に介護計画、支援を行う上で関係者には助言を頂き、ご家族の要望や職員間の話し合いを中心により良い生活が送れるように支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	様子は細かく変わることもあるので支援を行う中で変化に気づき申し送り共有把握を第一につとめて計画の見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	多機能化様々だが臨機応変に1つにとらわれずに支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	第一に地域資源を把握しご本人がより安全に暮らせる生きがいを持てるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医の説明メリット等説明させて頂き定期的な訪問診療等日々安心して生活できるように連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々状態が変化する中で状況の変化等あれば訪問看護さんに相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は入院期間やご家族にも相談し意向を伝え早期退院できるようにと施設に戻り以前のように生活できるように事前に相談等行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に意向を確認し、各関係者と共に連携し支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応はマニュアル化しており、連絡先や対応を行えるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害訓練は定期的に行い実践しており、近所の支援体制は徐々に連携を取っている。		

自己 評価	外部 評価	項目(ユニット2) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	基本的には丁寧なお声掛け、不快な発言がない様に支援し職員間でも気を使っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛け質問も答えやすいような発言をしてご本人のペースで自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご自身のペースで過ごせるように尊重しながら都度お声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時等身だしなみを意識しご本人と相談する等支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が一番の楽しみでもあるのでアンケートを取って食事を提供、行事食等お手伝いできる方は率先してお声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	摂取量は日々把握し、栄養状態等医療と相談しその時の状態にあった食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアを都度行い、訪問歯科等連携して清潔を保てるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンは記録を参照に職員間で共有し、トイレ誘導行って日々把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の原因は様々であり食事、水分摂取量、運動等個人差はあるが、まずは薬等に依存せずできることを支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴はご本人の意向を尊重して支援している。又施設には機械浴もあるので寝たきりの方でも浴槽に入れるような環境を提供している。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	表情等も見ながらご本人の意思を尊重して休める時は休み夜間良く休めるように日中は支援お声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	必要に応じてお薬処方して頂き、職員間でも必要性がなくなれば主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各々役割やできることは様々なのでおひとりおひとりにあった支援お手伝いや趣味活動を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物やひなたぼっこや外出のレクリエーションの計画を行い、出かけれる環境の提供と社会参加にもつながる支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の意向を尊重しつつ自由にお金を使えるように買い物や宅配等行っている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を持ってご家族に電話されたり、要望があれば施設からご家族へ連絡できる環境の提供を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安心できる環境が重要なのでまずは清潔を保ち各空間がわかりやすいようにしている。張り紙貼ったり等。季節感に関しては季節に応じた貼り絵や作品を展示したりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各居室であったりテーブルやソファの配置等気の合った方と話せる環境を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に家にある物、馴染み深いものを持参されることで少しでも安心して休めるようにご家族と相談している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内は安全に配慮した設計で自立した生活が送れるように状況に応じて支援している。		

V アウトカム項目(ユニット2) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

2 目標達成計画

事業所名 グループホームたのしい家安佐南

作成日 令和 7年 6 月 3 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	15	食を楽しむ。現状以上に行事計画等支援する。	食を楽しみ皆が笑顔で過ごす。	重度の方も多いので食を中心としたレクリエーションを現状以上の実施を目標にする。	1 年
2	4	運営推進会議等参加者が少ない。	外部との関わりを持つ	運営推進会議でご家族やご利用者等の参加も促す。	1 年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は，行を追加すること。